

北海道に貢献する意欲のある若者の海外挑戦を、官民一体で応援する「ほっかいどう未来チャレンジ基金」の旬な情報をお届けします！11月末時点で、第2期生1名、第3期生7名が海外留学中です！

知事感謝状を贈呈しました

(有)キョウゴク様から基金に対する寄附をいただき、11月7日に、道から知事感謝状を贈呈いたしました。(有)キョウゴク様は、H29から継続して基金へのご支援をいただいております。鈴木知事から寄附に対する感謝の気持ちを伝えるとともに、今後の応援と御協力についてもお願いしました。



世界へ翔け！北海道の未来応援キャンペーン

アサヒビール(株)様の御協力により、11月から2020年1月まで、北海道限定「ブラックニッカハイボール香る夜」の販売1本につき1円を基金の「スポーツコース」に寄附する取組を実施いただいております。今年6月から8月に引き続き第4弾のキャンペーンとなります。



留学生たちの活動状況

学生留学コース

第2期生 星野 愛花里さん 【留学先】キルギス 【留学期間】2018年12月～2019年12月（1年間）
種子生産や輸出入による種子ビジネスを学び、北海道農業との連携を目指す

10月は、キルギスの有機農業の現状について、有機農協とキルギス農業省にヒアリングを行いました。キルギスでは、農地が小規模で細分化されているため、生き残り戦略として、有機農業を進めており、現在は基準や有機認証のシステムを作っているところです。

また、キルギスでは国内限定の「参加型有機認証」で独自の認証を作って普及していますが、第三者販売（仲卸業者への販売）を目的とする商品を保証するものではないため、販売の大きな効果にはつながっていない状況でした。



第3期生 石垣 のぞみさん 【留学先】ドイツ 【留学期間】2019年10月～2020年8月（11か月間）
本道農業の魅力を発信するため、持続可能な農業のあり方を考えるとともに、グリーンツーリズムを学ぶ

ドイツでは、閉店法に基づき、日曜・祝日に小売店は営業を禁止されています。働く時はきっちり働き、休みはしっかり休んで、家族や自分のために時間を使うというドイツ人の意識があり、それが余暇を農村で過ごすという取組にもつながっていると感じました。

日本とヨーロッパの休日に対する意識の違いに着目する必要があると、日本では休日出勤も珍しくない中、農家民宿に泊まりに行こうと考える人は少ないと思います。農家でも農作業をこなしながら民泊を行うことは大変なことで、無理なく受け入れを続けていくことが重要だと思いました。



第3期生 有働 篤人さん 【留学先】フィンランド 【留学期間】2019年10月～2020年5月（9か月間）
札幌を世界のデジタル観光都市にするため、先進的なゲーム制作やソフトウェア開発を学ぶ

10月は、DEMOLAという実践活動を行いました。DEMOLAとはフィンランドで始まった産学連携の課題解決の取組であり、課題に対する調査やアイデア出しからプロジェクト完成までのプロセスを磨き上げるものです。この実践活動により社会の課題を解決できるプロジェクトを考案する力を付けることができます。

実施内容は、開催地域の企業が課題を出し、それに対し、開催地域の大学生が応募します。そこで、様々な角度から課題を考察し、これからの社会変化に備えた課題を解決するためのプロジェクトを考案していきます。プロジェクトとして発表するまでのアイデアの精査をどれだけ行えるかが勝負となってきます。



第3期生 海辺 菜々美さん 【留学先】カナダ、アメリカ 【留学期間】2019年9月～2020年3月（6か月間）
カナダで語学研修後、北海道の地域資源を活かした観光振興のため、アラスカでアドベンチャーツーリズムを学ぶ

語学学校では、レベル4からレベル5に上がり、生徒同士でのディスカッションが大部分を占め、生徒が発言するように先生がヒントを与えたり、話しやすいような雰囲気作りを心がけていたりしていました。一方的な授業は一切なく、各自の考えや発想、推測を発言することが求められました。

自然アクティビティでは、「Joffre Lakes Provincial Park」と「Stanley Park」に行き、美しい景観により訪問者で賑わう様子を伺い知ることができました。都市の中で自然を堪能できることから、様々な年齢層の観光客、地元民がアクティビティを楽しんでおり、同じく自然豊かな北海道での可能性を感じました。



第3期生 立花 洋太朗さん 【留学先】ノルウェー 【留学期間】2019年8月～2020年1月（6か月間）

ものづくり産業に関する人材育成のため、ICTを活用したものづくり教育を学ぶ

10月は社会変化と教育の講義を受け、主に北欧の教育の歴史、グローバル化と教育、インクルーシブ教育（全ての子どもたちに分け隔てなく行う教育）、教育格差等を日本とは違った視点で学んでいます。インクルーシブ教育は日本に比べ、オランダ、北欧諸国が進んでいます。ノルウェーでは特別支援教育学校などが日本に比べ非常に少なく、多くの子どもが一般の学校で学ぶ環境が整っています。教育格差は世界的な問題ですが、ノルウェーでは地理的な要因による機会の不平等や、少数民族や移民との格差をどのように解消するかが大きな話題であることを学びました。



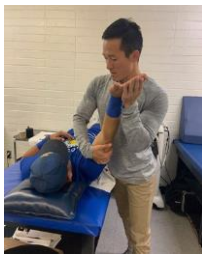
スポーツコース

第3期生 向井原 洋平さん 【留学先】アメリカ

【留学期間】2019年7月～2020年7月（1年間）

アスリートトレーナーに必要な最新スポーツ医学の知識と技術を学び、道スポーツ界に貢献

今月からは大学院での授業と研究に加え、大学野球部での活動がメインとなりました。選手には練習開始前に来て、障害予防のエクササイズを終えてから練習に向かうよう伝えていますが、なかなか浸透していません。今後も根気強く伝え、チームに根付かせたいと感じています。特に投手陣は、高強度のプログラムを連日行っているため、日を追うごとに肩や肘に張りを訴える選手が増えています。このままでは障害につながりかねないので、コーチとコミュニケーションをとり、投球プログラムを終えた選手が練習中に治療に来ることを認めてもらいました。



文化芸術コース

第3期生 清水 柚衣さん 【留学先】ハンガリー

【留学期間】2019年9月～2020年6月（10か月間）

ハンガリーでリスト音楽院のプログラムに参加し、演奏活動を通じ、北海道の音楽環境やレベル向上を目指す

10月は初めての国際コンクールへの参加や、本格的なレコーディングなど、様々なことを経験しました。コンクールは残念ながら動画審査で敗退しましたが、短期間に多くの曲を勉強するなど、多くの先生のレッスンを受けることができました。レコーディングではミスはあったものの自信を持って演奏できたと思います。

また、リスト音楽院の卒業生の方から紹介いただき、週に一度程度、日本食レストランで演奏をしています。お客さんとの距離も近くて話し声も聞こえて来る環境なので、お客さんの雰囲気を感じながら演奏しています。



未来の匠コース

第3期生 鹿野 皓己さん 【留学先】ドイツ 【留学期間】2019年9月～2020年2月（6か月間）

北海道ブランドのワインを確立するため、ワイン醸造の最先端技術を学び、醸造技術の向上を目指す

10月は、前月に引き続き圧搾作業や高温醸し作業に従事し、受入れ終了後はプレス機や高温醸し機の洗浄やメンテナンスを行いました。3人のスタッフで清掃作業を行ったので、全て終わるまでに2週間ほど費やしましたが、この清掃作業を行えたことで、機械の汚れやすい部分や消耗しやすいパーツ、使用している洗浄剤など細かく体験し、知ることが出来ました。これは北海道に帰ってからすぐに仕事に生かしていきます。



応援パートナーの皆様

(2019年11月現在・敬称略)

有末 真哉 石川 諭史 遠藤 光二 小黒 敬三 坂詰 貴司 佐藤 友昭 (税理士法人FULL SUPPORT 代表社員税理士) 鈴木 伸明
 武田 孝 (拓殖工業(株)代表取締役会長) 船津 秀樹 その他匿名希望の個人・企業4者